



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1932, 17(3): 239-242

ISSUE DATE:

1932-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184013>

RIGHT:

一月に發賣されたことの如きは實に特筆に價すると思ふ。勿論これも安政三年に既に東京で三木一光齋岡江川仙太郎刀の地球儀が杉本平兵衛佐野與市郎から發賣されてゐるし、ずつと以前に保井算哲が地球儀をつくり、その遺物の今日に傳はるものもあるけれども、まづかうしたものが、書肆の手によつて出版されてうれて行く世の中に變つたことは我地理學界の發達と見なくてはならないと考へるのである。

以上簡單ではあるが本書目を通覧した感じを略述しておいて余は讀者の研究にまかせる。(昭和七年二月 藤田元春記)

○享保年間出版書目

次號より連載す。

雜報

○中華民國の海産物

魚翅(鰹鱈)中華民國沿岸では浙江江蘇福建の外北方にありては芝罘、最大産地は舟山列島の沈家門である。魚頭、魚皮魚肚、これも江蘇浙江の沿岸。

淡菜 江蘇浙江に産し、寧波から上海へ送くる。

蠶干 支那の東海岸の産である。

蝦米(ほしえび) 江蘇の江北、山東芝罘を主とし沿岸一帯

に出る、蝦蛄、は江蘇、浙江、山東に産する。

紫菜(のり) 廣東に産するも其量少し。

魷魚(するめ) 同前

明骨(筋魚) 福建、浙江安徽に産する。
海威(いりこ) 浙江及威海衛に産す。

洋菜(かんてん) 浙江寧波、山東芝罘。

干貝(かいばしら) 山東芝罘に産するも少し。

香菇 冬茹、安徽、福建浙江湖南の各地に産し排日以前に

既に日本品の輸入は減じた。

南洋及附近の海産物として鰹鱈はシンガポール、ペナン、

爪哇、安南、シヤム、比律賓、印度、土耳其、埃及、波斯等

より毎年輸入される。一九三〇年輸入總額一萬一千三百擔の

うち日本、朝鮮、臺灣から三千百擔しか輸入してゐない。魚皮

は南洋シンガポール、ペナンより輸入される、魚肚も同様で

ある、干蝦と干鮑及鰻の三種は米國、ヒリツピン、カリフォル

ニヤから輸入され後二者は鰹詰と樽入、箱入となつてやつ

てくる、かうしたことは排日會が、海産物をすべて日本品だ

として沒收したために、支那商人が之に對して、日本品は實

は少い。右の通り支那産にあらずんば、南洋や北米から海産

物がくるといつたので明になつた事實である。

○ニューカレドニアと日本人

ニューカレドニアの

面積は我四國程で人口約五萬、内日本人千四百、佛人一萬四千、土人二萬七千、其他ジャバ及トンキンからの移民少々、佛領のうちでもニツケル及クロウムの産地として世界的に名高い。

北部に Nehone(米人經營) Pibaghi(英人經營)のクロウ

ム鐵山あり鐵石のまゝ輸出す Alpha 及 Chagrin の鐵山は佛人の經營であるが産出年額七萬噸に達し、ニツケルの方は Phis 及 Yoh にあつて産出年額五千噸、世界産出額の六分に達する、鑛業の外に農産物にはコブラ、コーヒ、棉と

カカオで之を四〇といふ、林産はカオリ、シェーンガム等の良材あり、牧畜も盛で牛肉及牛皮鹿皮を産し、海産には眞珠貝高瀬貝及烏養がある。全島殆ど珊瑚礁を以てかまれてゐるから、このグアノの産は見込が多い、製造工業の見るべきものがないから日用品雜貨は全部輸入である、佛本國から年額七千二百萬フラン佛植民地から七百萬フランを輸入し其他の各國から七千萬フランを輸入、オーストラリヤからの貿易が多いのは地の利である、しかしもし日本から直通航路を開くならば、日本品として富士絹、綿布、メリヤス、米、砂糖ビール、ポテト、セメント等が有望である。

船舶はフランス本國からバナマ經由で六週一回シドニーとの聯絡四週一回、サイゴンとヌメア間三月に一回あるに過ぎない、シドニーの山下汽船會社は、もし一航片道二百噸の貨物さへあれば、日本オーストラリヤ航路船が寄港してもよいと云つてゐるのであるから日本人はこゝで一つこの方面に努力する必要がある。

日本人の狀態、現にこの島にゐる日本人は僅に千三百二十五人に過ぎずヌメア附近に居るものが多いが、到る所に邦人が散在してゐる、農牧に従事するもの四六〇人、林業に従ふ

もの六十人、鑛業に従ふもの百七十人、土木等二〇五人、貿易業一〇、商人四五、洗濯、飲食、裁縫、理髮業者いづれも二、三十人を算する。

全島を通じて佛人以外で商人といへば殆ど日本人のみで首府ヌメアには(人口一萬)數戸に一戸の日本商店あり、プーレール、コネ、シホ等の村落市區何れも邦人雜貨店がある、ヌメアに二戸の輸出入商店があつて、日本人小賣の卸をやつてゐる、各地の雜貨店は一方道路工事の請負を兼ね、農作物の仲買をやり成功してゐる、ヌメア郊外の日本の農夫は家數五十就業者百五十、ヌメア市の野菜全部を供給してゐるので、殆ど日本人の專業である、ラフオア村ではコーヒを栽培し三十餘名が土地を所有してやつてゐるが、平均四五町歩を所有してゐる、プーレールでは四十人の農夫が百十町を所有し六百町を借地して野菜やコーヒをつくりコネでも邦人コーヒ一園一八戸を算する、ヘネケンではコーヒ一園日本人二十二戸所有地九九六町、これらのコーヒ一園は一戸平均四町歩をもつてゐて一年數千法の利を得てゐる、地味は肥沃で、肥料がいらず、植付後三年目から收穫がある、日本で勞働する半分でやれて、氣温は平準であり疫病皆無の地であるから、前途希望である、日本の鑛業者は元來鐵山勞働者として契約移入であるが目下これに従事するもの百數十名、いづれも十年乃至三十年を経過してゐるから部長級になつてゐる、林業も亦邦人の獨占であるが、漁業では法律上日本人は船主たるこ

とが許されぬ、歸化してゐるものがある。

ニューカレドニア總督が、日本人なくして本島の開發は望まれぬといふ位で邦人の社會的位置は良い、不幸にして日本人は男のみで、日本人を妻とするもの十數名しかない、フランス混血兒や土人と同棲するもの百名に達する、この際女子を移住せしめる必要がある又邦人醫師が居ないのが缺點だからこゝに至急邦人醫師を送つてみたい。

全島丘陵起伏し廣茫たる原野少きために未開樂地の面積は限りがあるけれども現在では土地廣くして人が少いのであるから移民の前途は有望である、少くとも現在の日本人を四、五千人に増加するは敢て難事ではないであらう、いづれにしても本邦汽船の直通航路を開くことは誠に望ましいことである。

○印度向本邦雜貨類

帽子、インドへ輸入さるゝ帽子類は年額約三百萬留比にして英國及伊太利の品は漸減してゐるけれども、金額に就て三割四分及三割三分をしめる、英國品は高級、伊太利品は中級である、日本は輸入金額に變化がないが數は増加する、しかし近頃カルカタ方面でヘルメットやフェルトをつくるので、これらの品は輸入がとまつた、日本はフェルト中及下級品で、伊太利の品と競争してゐる。

人形玩具はドイツが中級以上を目的とし、本邦品は下級を觀は目安として、市場を支配してきたが、外貨排斥で將來樂できない。陶磁器は輸入總額一年に七百二十萬留比である

が、數量では日本品が常に第一位をしめ三百萬留比に達する

チェツコスロバキヤが近頃著しく進出して二十二萬留比に達した、陶器も安物の茶碗と皿とが我商品の獨舞臺である、名古屋の日本陶器の製品は中産以上の需要に向く上物であるがこれは競争が多い、市場維持策としては、も少し日本人が販賣統制をやらねばなるまいとの事である、とにかく日本人がこの方向の調査研究をやつて統制をとつてゆくのが急務で今日以上に進出は望まれない。ハンカチーフ類は主として英國から輸入されるが、その輸入品中に日本品が混交してゐるのが事實である、中華民國の所謂華僑はボンベイに約三軒の元締をやつてゐて、デツキバツセンヂヤー（最も安價で渡航する人々）にて渡來する中國青年に少量の現品をもたせて、内地で戸別訪問掛賣をやらして、インド到る所に入込み、汕頭、レースや中國刺繍を巧にとりいれた手巾、茶卓、又は化粧臺、帷ひ等をうつてゆくので、本邦製の刺繍入ハンケチ類はとても賣行がわるい。これらの華僑の活躍には到底土着インド人すら對抗し能はないといふ報告をきく、日本人も南洋や印度方面に活動するには、この支那に學ばねばならぬことが多いと考へられる。

○南米智利國の財政の危機

一九二七年—一九三〇

年の間イバニエス大統領が治政は武斷的であつたが斷えず財政狀態の好況をほこり連年剩餘金を出してゐたところ一九三〇年後半期より世界的不況の影響をうけて一九三一年度の豫

算は一時編成難に陥つたが幸ふじて辻褄を合せたけれども一九三一年の不景氣で、歳入は激減して財政全く行きつまり、七月大統領はアルゼンチンに亡命してしまつた。チリー國財政の危險の原因を數へると左の如くである、第一、輸出貿易の減退一九二九年に二十四億萬ペソに上つた輸出額が一九三〇年には十三億ペソに激減した。一九三一年度は更に減じて十一億五千萬ペソに達しない、かく輸出高が半減しに結果國內滯貨は増加し、各種産業は萎縮し、國民所得は人口一人當一千ペソであつたものが人口一人當五百五十五ペソといふ風に半減した、國民の納税力はへるし、關稅收入はへる、國庫收入もへるから、國債利子や官吏俸給其他國庫當然の支拂義務の履行にも差支へるやうになつた。

そこで第二に國庫信用がなくなつたために、勞働階級の保護、國內財界の景氣維持策として、都市の改造や、港河の修築を行ひ農業を振興せんとして灌漑工事を興しいろいろ積極にやつてきたが、その資源を専ら某國の如く公債と借款に求めたので、イパニエス政府の債務は急に増加し一九三〇年末には四十四億ペソを超へるに至つた、故に政府は外國で借金をしやうと考へたが悉く失敗した、之を國內市場で公債によ

らんとしたがそれも失敗した。

遂に一九三一年七月十六日以後政府は外債支拂停止を行ひ七月三十日以後向ふ二年間、政府の保證せる市、抵當貸付、金庫、國有鐵道經營の外債支拂停止を行ひ、官吏の減俸と行政整理をはじめたが、之が容易に出來ない。そこで政府は最後の手段として紙幣増發の決意をなし準備金の比率五割（現行）を四割に引下げ、約一億ペソの紙幣を増發せんとしてゐる。

しかしもしこれを實行すれば、いよいよ對外爲替の決済が出來なくなる、政府の對外支拂が困難になると共に、チリー國貨幣相場が下落して回復が出來ない、國內の品物が安くなるから輸入がしやすくなるとしても其利益は資本家たる英米の商人を肥すのみで、一般國民は益々困難になる。

イパニエスは失敗して新しい政府は人民の一致を得てこの難局に當つてゐるが、歳入は六億ペソに上にすぎない見込であるから、失業者の増加、國民思想の惡化を防ぐことは不可能である、かくてチリーは今や財界の行つまりで進退兩難の衝に進行してゐる。恐ろしいことは國家でも個人と同じく借金政策の最後ではなからうか。